

相談支援係
072-941-3365

情報チーム
072-943-5785

研究研修係
072-943-5784

教育センター
Web pageは
こちらから



『そだちのねっこ』

～乳幼児期の遊びより～



【すごいでしょ～、こんなこともできるんだよ！

～安心基地からの第一歩 全身を使って～】

11月7日(火)、0歳児の子どもたちが遊ぶ様子を見学してきました。中庭で、大好きな保育者に見守られ、時には抱っこされながら元気に遊んでいました。

歩けるようになった子どもは、壁をタッチしに行ったり、狭いところに入ったりしていました。

ハイハイで自由に動くことを楽しんでいる子どもに「どこ行くの?」「何があるのかな?」と声をかけ、保育者も同じようにハイハイをして視線を合わせ、寄り添っていました。

「ボールを渡したらどうするかな?」「トンネルくぐりはできるかな?」など、子どもたちの発達段階と興味・関心を考慮しながら、かかわり方を試す保育者の姿も多くありました。「ど～ぞ」とボールを渡されたり「ちょうだい」と手を出されたりする経験を繰り返すことで、ものを介して人とのかかわりも体得していきます。



ままごと遊びのコーナーでは、保育者から「ごはんどうぞ!」「お茶いれますか?」とコップを渡された子どもがコップとコップをぶつけてカンカン音が鳴ることに気付き、嬉しくて何度も鳴らしていました。その様子に「コップはそんなことをするものじゃないよ」と子どもの行動を止めるのではなく、「音鳴るね～」「カンカン言ってるね～」と肯定的に捉えて共感し、自分で音を鳴らせたことを認めていました。

また、風船マットでは、上によじ登り、座ったり寝転んだりしている子どもや体を安定させようと全身でバランスを取っている子どももいました。「おととと～」と言いながら、助けてくれる保育者がそばにいることも安心して楽しめる要因となっています。

歩く・押す・つまむ・ひっぱる・めくる・叩く・持つなどの動きを楽しみながら、様々な運動機能も発達していきます。いろいろなものを見て触って感じて、自分の周りのものを認識し、どういうものであるかを獲得することが嬉しい



探索活動につながります。子ども自ら「やってみよう」とする気持ち、そして行動こそが、好奇心であり、自我の芽生えであります。

一人ひとりが笑っている、泣いている、怒っているなど、すべての姿を受けとめてもらい、温かく見守られることで子どもたちの心は安定します。そんな安定した環境（＝安心基地）から、一歩出てみようとする気持ちを大事にして保育していることもよくわかりました。

一歩外へ出てもまた戻ってこられる、子どもたちにとって居心地のよい安心基地（＝保育者）であり続けたいと思いました。

初任者研修⑱「授業づくり7」

令和5年11月9日（木）と16日（木）に初任者研修⑱「授業づくり7」を行いました。今回は小・中学校の教室を借りて、小・中の初任者4人が各学校で行う授業を他の初任者が分散して参観しました。授業終了後、授業内容について研究討議を行い初任者の授業力向上を図りました。どの授業者も精いっぱいの準備をして授業に臨みました。授業を参観した初任者からは授業者に対する賛辞と共に「自分ならこうする」という意見が出されるなど積極的な討議が行われました。

＜受講者感想＞

- 授業を行う上で、教師と生徒との信頼関係の重要性について実感した。授業者は授業が始まる前から生徒とコミュニケーションをとって、生徒はチャイムが鳴るとすばやく授業体制に切り替わっていた。これは普段からの指導があつてのことだと思う。また、時間配分も適切で振り返りの時間もしっかり確保されていて素晴らしいと思った。
- 何よりも、子どもが発表しているときに、ほかの子どもが発表者のほうを見て、意見をしっかりと聞いているのがよかった。子どもたちが互いに学ぼうとする姿勢があるのは、日々の積み重ねだと思う。子どもたちの意見から授業が作られているのが素敵だった。たくさん手も挙がっていたし、もっと言いたい、もっと考えたいと思う気持ちが湧き出していた。私も子どもがもっと考えたいと思える授業をつくっていきたいと思った。
- 生徒が間違えた時のフォローが非常によかった。生徒が間違えた時に、間違えても大丈夫なんだと思える空気づくりがされていると感じた。また、理科室で実験を行う上での注意が具体的でわかりやすかった。特に他クラスでの失敗事例の紹介はわかりやすかった。
- 道徳では読み取りに時間がかかってしまうことがあるので、道徳的価値の部分に多く時間が割けないことが多かったので、今回のようにうまく相関図を用いることで、教材の内容理解に時間をかけないようにしていくことが大切だと気づいた。また、登場人物が3人以上にわたるときは、それぞれの場面や考えを意識して多角的に考えさせることが大切だと感じた。児童の発言は予測できないことも多いので、そこにもしっかり反応できるように準備しておくことが大切だと思う。

首席研修②

令和5年11月30日（木）午後3時～午後5時に首席研修②を行いました。講師は大阪教育大学木原俊行教授で研修テーマは「カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた学校力強化」です。

研修で使用したスライド資料

カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた学校力強化

- 学習指導要領改訂のポイント
- 主体的・対話的で深い学びを成立・充実させるカリキュラム・マネジメント
- カリキュラム・マネジメントを活性化させるための校内研修

対話的な学びとは

- ペア学習やグループ学習の重視、それらと一斉学習の往還
- クラウド等を利用した展開
- そのパートナーの広がり＝異校圏連携、遠隔交流学習など

<受講者感想>

論題：カリキュラムの視点から学校力を強化するために大切なことはどのようなことか。

- 子どもの自力思考をもとに課題に対する見通しを持たせる。子どもの見通しをつないで、クラスの集団の合意形成を本時のめあてとして設定し、授業に活かす。こうした授業づくりを全学年で系統的に取り組むことが大事だと思う。
- ①自身の実践を周りに伝える ②校内研修を充実させる ③モザイク状に指導を繰り返すのではなく、各学年が系統的に、学習が積みあがるように指導計画をたてること。
- 教材をしっかりと研究して軽重をつけて実践していくことは、特に今の時代、大切なことだと思う。また、学びなおしの授業は、子どもたちに真の力をつけることになると思った。学校独自のカリキュラムマネジメントは大切だと思う。

教育センター「情報公開コーナー」

教育センターB棟（東側）の2階に「情報公開コーナー」があります。各種教育関係図書・雑誌等を配架しています。もちろん「教科書センター」として八尾市で採択している教科書や他社の教科書もあります。研修等で来所された時に直接ご覧いただければ幸いです。教科書・その他書籍・雑誌等も2週間の貸し出しを行っております。今回は11月から12月に配架した雑誌の誌名と目次の一部を紹介いたします。

「指導と評価」（日本教育評価研究会） 12月号

- 特集1 新学習指導要領に沿った試験問題のつくり方（中学校）
- 特集2 SOSを出せる子どもを育てる

「指導と評価」（日本教育評価研究会） 12月号の特集2は「SOSを出せる子どもを育てる」です。そもそも「SOS」とは何でしょう。SOS（エスオーエス）は、かつて船舶を中心に用いられていたモールス符号による遭難信号です。現代では遭難に限らず助けを求める合図として使用されることがあります。ちなみにSOSはモールス符号では「トントントン ツーツー トントントン」となります。短いのが3つ、長いのが3つ、短いのが3つ。覚えやすいし応用がききます。さて、本題ですが、東京成徳大学の石隈利紀教授は特集に沿った巻頭言として「SOSを言える環境づくりとSOSの受信力」という文章を寄せておられます。ここでSOSは「助けて」「相談があります」という子どものメッセージであり、その発信力と大人の受信力を高めていきたいという話です。第一に子どもの発信（「意見の表明」）は法的に2023年4月に施行された「こども基本法」第3条（基本理念）に明記されています。第二にそれがSOS（「助けて」）であるとき、大人がこどもの苦戦に気付く機会となります。もちろんそれに対する支援が可能となります。第三にそれが授業改革・学校改革に繋がります。子どもがSOSを発信するためには心理的抵抗感があります。これに対して「援助を求めているんだよ」というメッセージを伝えること、受けたSOSには大人が真摯に答えなくてはなりません。また、子ども自身が自分の「危機」を感じ、勇気をもってSOSを発信することが必要です。石隈教授はこのように述べたうえで、学校においては教職員が「子どものSOS」の受信力を高めることの必要性を訴えておられます。個人の感覚だけではなく、より多くの目で多面的に見守ることが必要です。最後に、「自立とは依存先を増やすこと」とであるという熊谷晋一郎氏のメッセージの共有を述べられています。大人も子どももSOSが大切です。

（葭仲）

「道徳教育」（明治図書）12月号

- 特集 いじめを許さない心を育てる教材セレクション

「月刊学校教育相談」（ほんの森出版）12月号

- ・特集1 グレーゾーンの子を支える「さりげない支援」
- ・特集2 なかなか会えない不登校の子への支援

「特別支援教育研究」（全日本特別支援教育研究連盟編集・東洋館出版社）12月号

- ・特集 実践してみよう！子ども主体の交流及び共同学習と地域協働活動

「初等教育資料」（文部科学省教育課程課・幼児教育課編集・東洋館出版社）12月号

- ・特集Ⅰ 資質・能力の育成に向けた授業づくり3
ー学びに向かう力、人間性等の指導と評価を軸に①ー
- ・特集Ⅱ [音楽] 学習指導要領における指導のポイント
カリキュラム・マネジメントと音楽科の授業改善

「中等教育資料」（文部科学省教育課程課編集・学事出版）12月号

- ・特集 「体系的・系統的なキャリア教育」の推進

教育科学「国語教育」（明治図書）12月号

- ・特集 国語授業がもっとうまくいく！「最強発問」88

教育科学「社会科教育」（明治図書）12月号

- ・特集 子どもの集中力を持続させる！授業で使えるワザ大全

「新しい算数研究」（新算数教育研究会編集・東洋館出版社）12月号

- ・第1特集 変化と関係領域における数学的な見方・考え方とその成長とは？
- ・第2特集 学年進行に伴う関数の考えの指導の在り方は？

